

平成29年産大豆栽培ごよみ

(H29.5作成)
福岡京築農業協同組合
京築普及指導センター

◆選ばれる『京築の大豆』づくり

- 10a当たり目標収量 200kg
- 上位等級比率 90%以上

◆排水対策と土づくり

- 梅雨中の適期播種を行うため、降雨後速やかに播種できるよう、耕起は播種当日に行いましょう。
- 適期播種後は、大雨による冠水・出芽不良の可能性が高まるので、以下の排水対策を徹底しましょう。
 - ・ほ場周囲の作溝、弾丸暗渠施工
 - ・うね立て播種、播種後のうね溝の連結(交差部・排水口との)

◎土改材(10a当たり)

資材名	施用量(10a当たり)
ミネラルG	140kg
炭酸苦土石灰	100kg
生石灰	80kg

※大豆連作田では堆肥(0.5~1.0t/10a)を施用しましょう。

増収と品質向上のポイント

- ほ場の集団化
- 種子の全量更新
- 排水対策の徹底
- 適期播種
- 中耕培土の徹底
- 雑草・病害虫防除

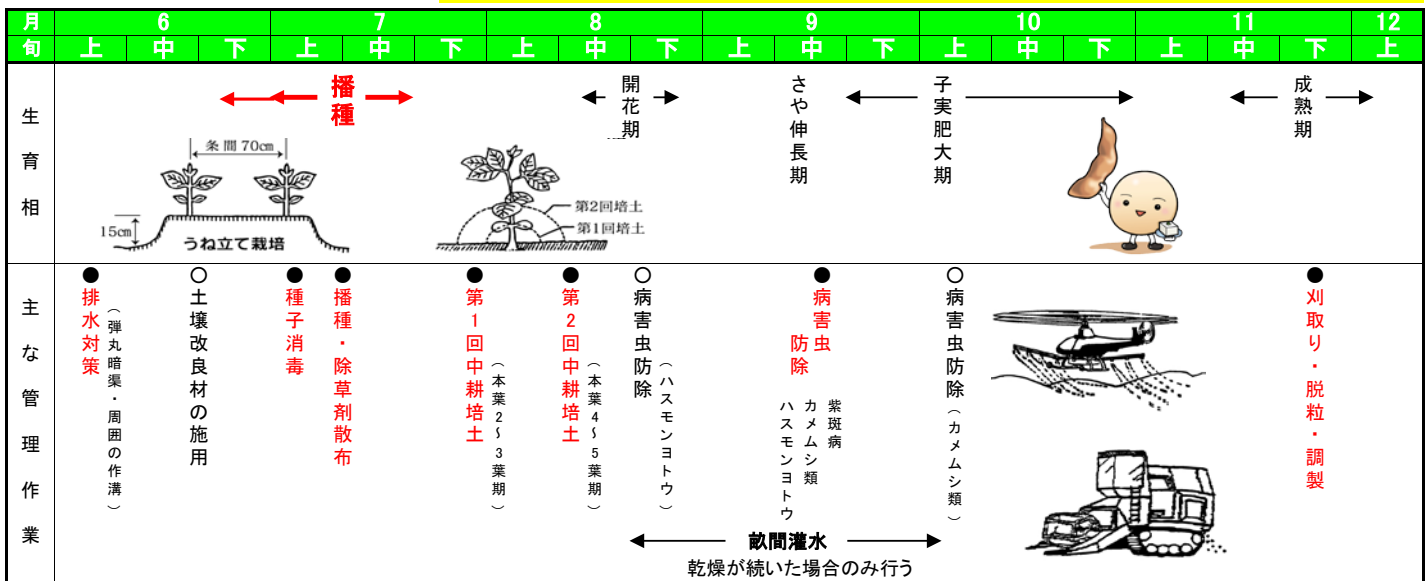
◆播種時期別の播種密度と播種量(フクユタカ)

播種時期	条間(cm)	株間cm	播種量(kg/10a)	目標苗立本数(本/m ²)	過去5年間の播種可能日数
6月21~30日	70	26~21	3.4	9.5	4日
	80	22~19	~4.0	~11.4	
7月1~10日	70	21~17	4.0	11.4	4日
	80	19~15	~5.0	~14.3	
7月11~20日	70	17~13	5.0	14.3	5日
	80	15~11	~6.7	~19.0	
7月21~31日 (遅播き)	70	13~9	6.7	19.0	8日
	80	11~8	~9.2	~26.0	

※播種時期に応じ、播種が遅れるほど多くする。播種深度は3~4cm程度。

・収量向上のためには、7月1~20日の適期播種が重要です。

・この期間(20日間)は梅雨中のため、実質的に播種できるのは半分の10日程度です。播種面積で、10日で播種できないなら、6月下旬から早めの播種をお願いします。



◆雑草防除

◎初期除草剤(10a当たり)

	除草剤名	使用時期	使用量	備考
乳剤	サターンバアロ乳剤	播種後発芽前	600~800ml	希釈水量は70~100ℓとする。土壌が極端に乾燥している場合は希釈水量を多めにする。
	プロールプラス乳剤		400~600ml	
	クリアターン乳剤		500~800ml	
粒剤	クリアターン細粒剤F	播種直後から雑草発生前まで	4~5kg	均一散布。
	サターンバアロ粒剤	播種後発芽前	4~6kg	

※適期播種のため、ほ場の耕起は播種当日に行うが、雑草が多い場合は、ラウンドアップマックスロードまたはサンダーボルト007を事前に散布する。

◎中期除草剤(10a当たり)

	除草剤名	使用時期	使用量	備考
イネ科	ポルトフロアブル	イネ科雑草3~10葉期 収穫30日前まで	200~300ml	希釈水量は100ℓとする。イネ科雑草にしか効果がない。周辺の水稲には絶対にかからないように注意する。
広葉雑草	大豆バサグラン液剤	大豆の2葉期~開花前 但し収穫45日前まで	100~150ml	希釈水量は100ℓとする。雑草茎葉散布。イネ科雑草には効果がない。
畝間処理	ブリグロックスL	雑草生育期 収穫3日前まで	600~1,000ml	希釈水量は100~150ℓとする。雑草茎葉散布。大豆にかかると枯れるので注意する。
	パスタ液剤	雑草生育期 収穫28日前まで	300~500ml	希釈水量は100~150ℓとする。雑草茎葉散布。大豆にかかると枯れるので注意する。

◆基肥(10a当たり)

遅播き(7/21以降)や大豆連作等で生育・反収が悪いほ場では、基肥として、くみあい化成ペスト444を10a当たり15kg施用する。

◆種子選別・消毒(種子1kg当たり)

農薬名	散布量	対象病害虫
キヒゲンR-2フロアブル	20ml	紫斑病、苗立枯病、鳩害
クルーザーMAXX	8ml	紫斑病、苗立枯病、ネキリムシ類

※紫斑病などの病害種子は、除去して使用する。

※薬を塗着後、乾かして播種を行う。

◆病害虫防除(10a当たり)

農薬名	散布量	対象病害虫
ガードベイトA	3kg	ネキリムシ類
プレバソフロアブル5	4,000倍	ハスモンヨトウ
キラップフロアブル	2,000倍	カメムシ類
アミスター20フロアブル	2,000~3,000倍	紫斑病

※ハスモンヨトウによる白変葉が見え始めたら、白変葉を早めに除去する。

※プレバソフロアブル5は、ハスモンヨトウ幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前に防除する。

※ガードベイトAはネキリムシの発生を確認したら株元に散布する。(生育初期)

◆コンバイン収穫

- ・収穫の目安は葉が完全に落ち、茎がポキポキと折れる頃。
- ・雑草や大豆の青立株は汚損粒発生の原因となるので、刈取り前に引抜く。
- ・朝夕の水分の多い時を避け、日中に収穫する。

※農薬散布時には使用基準を遵守し、周辺作物への飛散に注意しましょう!